

平成30年度(2018年度)

管理事業名	南千里庁舎管理事業			総合計画の体系	第6章 安全で魅力的なまちづくり 第2節 暮らしや都市活動を支える基盤づくり
主な歳出予算科目	一般会計	(款) 8	土木費	(項) 1	土木管理費 (目) 1 土木総務費
部局名	土木部	予算執行所属	総務交通室		
予算大事業名	南千里庁舎管理事業				
	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名				
事業の目的と概要 【目的】吹田市南千里庁舎の維持管理を行う。 【概要】南千里庁舎管理事業(吹田市南千里庁舎の施設及び設備の保守点検、修繕等に関すること)					

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	成果指標の定義
庁舎使用率	%	100	100	100	吹田市南千里庁舎の延床面積に対して、庁舎として使用している割合
成果の説明	土木部内各室の事務室及び倉庫として有効に活用しています。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	差額 B-A
経常収入				
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	-	-	-	-
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	854	877	859	△17
経常収入 小計(a)	854	877	859	△17
給与関係費	7,138	7,150	8,170	1,020
物件費	18,063	18,594	18,502	△92
維持補修費	432	676	1,122	446
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	3	18	-	△18
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	9,013	9,191	9,328	138
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	618	627	980	353
退職手当引当金繰入額	797	466	1,787	1,320
支払利息	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	36,064	36,722	39,889	3,167
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△35,210	△35,845	△39,030	△3,185
特別収入				
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別費用				
固定資産除売却損	-	4,105	-	△4,105
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	4,105	-	△4,105
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	△4,105	-	4,105
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△35,210	△39,950	△39,030	920
一般財源充当額	26,046	35,722	28,400	△7,322
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	△9,164	△4,228	△10,630	△6,403

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
給与関係費	職員人件費 8,170千円(1,020千円の増)
維持補修費	南千里庁舎建物等修繕に係る経費 1,122千円(446千円の増)
退職手当引当金繰入額	退職手当引当金繰入額 1,787千円(1,320千円の増)

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	854	877	835	△42
行政サービス活動支出	26,900	27,730	29,235	1,505
行政サービス活動収支差額	△26,046	△26,853	△28,400	△1,546
投資活動収入	-	80,000	-	△80,000
投資活動支出	-	88,869	-	△88,869
投資活動収支差額	-	△8,869	-	8,869
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	-	-	-	-
財務活動収支差額	-	-	-	-
収支差額 合計	△26,046	△35,722	△28,400	7,322
一般財源充当額	26,046	35,722	28,400	△7,322
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	(行政サービス活動支出)
	南千里庁舎警備業務 5,443千円
	南千里庁舎清掃業務 1,827千円 ほか

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
建物1㎡あたりのコスト	平成28年度	3,537 ㎡	10,196 円	給与関係費、維持補修費等の増加に伴い、単位あたりコストが増加しています。
	平成29年度	3,480 ㎡	10,552 円	
	平成30年度	3,480 ㎡	11,462 円	
	平成28年度		円	
	平成29年度		円	
	平成30年度		円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成29年度末 A	平成30年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成29年度末 A	平成30年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	627	980	353
未収金	-	24	24	地方債	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	短期借入金	-	-	-
短期貸付金	-	-	-	賞与引当金	627	980	353
徴収不能引当金	-	-	-	未払金	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
有形固定資産	621,135	611,807	△9,328	その他流動負債	-	-	-
土地	498,947	498,947	-	固定負債	6,782	7,755	973
建物・工作物	122,188	112,860	△9,328	地方債	-	-	-
リース資産	-	-	-	長期借入金	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	退職手当引当金	6,782	7,755	973
無形固定資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
インフラ資産	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
土地	-	-	-	負債の部合計	7,408	8,735	1,326
建物・工作物	-	-	-	純資産	613,727	603,097	△10,630
建設仮勘定	-	-	-	重要物品	-	-	-
重要物品	-	-	-	図書館資料	-	-	-
図書館資料	-	-	-	投資その他の資産	-	-	-
投資その他の資産	-	-	-	出資金	-	-	-
出資金	-	-	-	長期貸付金	-	-	-
長期貸付金	-	-	-	基金	-	-	-
基金	-	-	-	徴収不能引当金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	その他債権	-	-	-
その他債権	-	-	-	資産の部合計	621,135	611,831	△9,304
資産の部合計	621,135	611,831	△9,304	負債及び純資産の部合計	621,135	611,831	△9,304

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

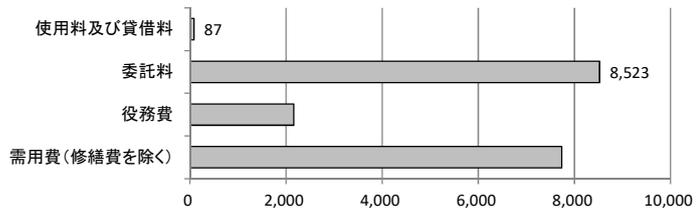
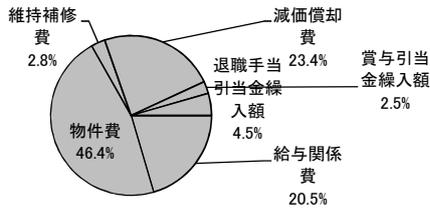
事業従事人数	常勤・再任用	非常勤	臨時雇用員	審議会委員等	合計(千円)
	月平均 1.17人	月平均 人	年間従事延日数 日	実人数 人	
給与関係費等	10,937千円	千円	千円	千円	10,937
内、時間外勤務手当	0千円				

貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	吹田市南千里庁舎建物減価償却による9,328千円の減

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田市南千里庁舎
取得年月日	昭和56年(1981年)4月1日
建物・工作物の取得価額	518,312千円
建物・工作物の減価償却累計額	405,452千円
利用料金収入	-千円

▽分析指標

(単位:%)

分析指標	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	差 B-A
施設維持補修費比率	0.1	0.1	0.2	0.1
施設老朽化比率	76.4	76.4	78.2	1.8
受益者負担比率	-	-	-	-
徴収不能引当率	-	-	-	-
一般財源充当比率	96.8	30.6	97.1	66.5
経常費用対公共資産比率	6.9	7.1	7.7	0.6

[参考:市保有施設全体の老朽化比率は56.2%]

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

経常費用の主なものは、物件費18,502千円(46.4%)、減価償却費9,328千円(23.4%)、給与関係費8,170千円(20.5%)、維持補修費1,122千円(2.8%)等で経常費用全体の93.0%となっており、昨年度とほぼ同じ構成となっています。
ただ、市保有施設全体の老朽化比率が56.2%であるのに対して、吹田市南千里庁舎では、78.2%と高い比率となっていますが、施設維持補修費比率は0.2%と低い比率のままとなっています。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

吹田市南千里庁舎は、昭和56年(1981年)の竣工から38年が経過していますが、その間、大規模修繕や設備機器の更新を行ったことがなく、施設老朽化比率も78.2%と市保有施設全体の同比率56.2%を大きく上回っています。施設の老朽化に伴う経年劣化により、空調設備や排水管等の修繕費が増加していますが、厳しい財政状況のもと十分な修繕費が確保できず、必要最低限の修繕しか行っておりません。今後、施設の老朽化が進むにつれて、必要最低限の修繕では建物の維持管理が困難な状況に陥ることが想定されます。
また、吹田市南千里庁舎は、災害発生時には道路復旧等の拠点となる重要な施設であることや、施設のバリアフリー化への対応も遅れていることなどから、今後、施設の適切な維持管理や機能向上のための改修工事等の必要性を含め、関係部局との協議が必要になると思われます。